

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

国内株式および国内債券市場 2021年7月～9月

運用先市場の状況

作成基準日 2021年9月30日

○国内市場

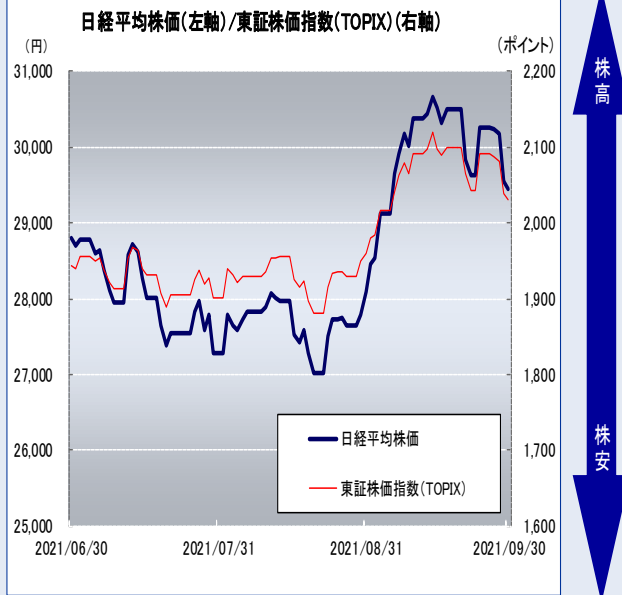
・株式市場

国内株式は、上昇しました。

7月は、新型コロナウイルスの世界的な感染再拡大が警戒されたほか、国内では五輪が無観客で開催されるなかで感染拡大に歯止めがかからず、景気の先行き不透明感が強まり、株価は下落しました。

8月は、緊急事態宣言の対象地域が拡大され、相場への重荷となる局面がありました。しかし、多くの企業が好決算を発表したことや、FRB(米連邦準備制度理事会)がテーパリング(量的緩和の段階的縮小)を年内に開始するとの見通しを示したものの利上げは急がない姿勢を示したことなどから、上昇しました。

9月は、上昇しました。菅首相の退陣表明を受けて次期政権の経済対策への期待が高まったことや、感染者数がピークアウトしていることなどが好材料となり、海外投資家主導で上昇しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

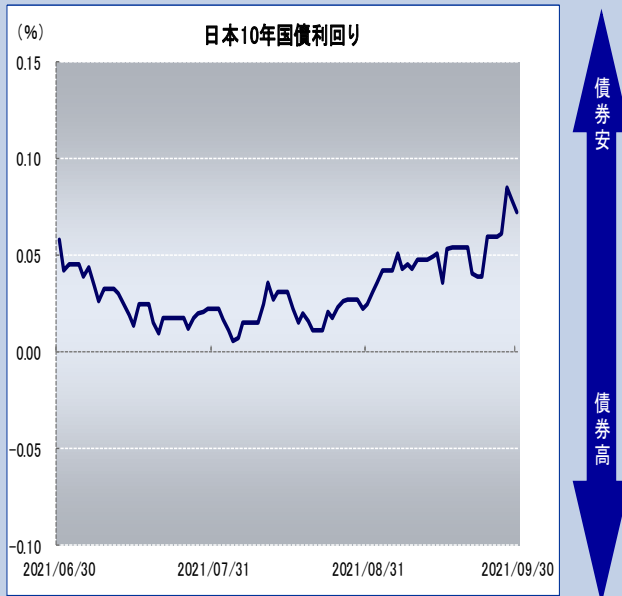
・債券市場

国内長期金利(10年国債利回り)は、上昇しました。

7月は、米国で景気回復期待の一服や感染再拡大を背景に長期金利が低下したことや、国内でも感染拡大により株価が下落したことなどから、長期金利は低下しました。

8月は、長期金利は0.05%を下回る水準でのレンジ推移となりました。米国で良好な雇用統計を受けて金利が上昇したことや、国内長期金利0%近辺での利益確定の売りなどが、長期金利の上昇要因となりました。一方、一部弱めの経済指標を受けた米国金利の低下やデルタ型ウイルスの感染拡大などは、金利低下要因となりました。

9月は、長期金利は上昇しました。菅首相の退陣表明をきっかけに株価が上昇したことを受け、金利は上昇しました。また、FOMC(米連邦公開市場委員会)で政策金利見通しが引き上げられ、米国金利が上昇したことも長期金利の上昇要因となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

外国株式および外国債券、為替市場 2021年7月～9月

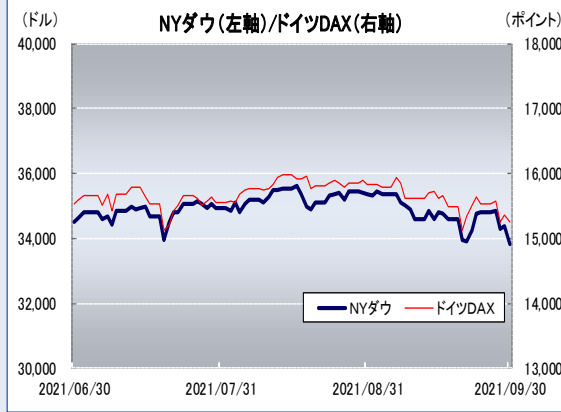
運用先市場の状況

作成基準日 2021年9月30日

○外国市場

・株式市場

米国株式市場は下落しました。7月は、上昇しました。堅調な企業決算動向や長期金利の低下を背景に、株式市場は上昇しました。8月は、上昇しました。デルタ型ウイルス感染拡大への懸念などから、下落する局面がありました。しかし、FRB議長が利上げを急がない姿勢を示したことや、企業決算が概ね良好だったことなどから、株式市場は底堅く推移しました。9月は下落しました。軟調な雇用統計や長期金利の上昇、中国不動産大手の経営破綻観測などが懸念材料となりました。欧州の株式市場も、米国と連動するかたちで下落しました。7月は、ECB(欧州中央銀行)理事会で超低金利政策の継続が示されたこともあり、上昇しました。8月も、概ね米国と同様に上昇しました。9月は、ECBから資産買入れペースの減速が発表されたこともあり、下落しました。

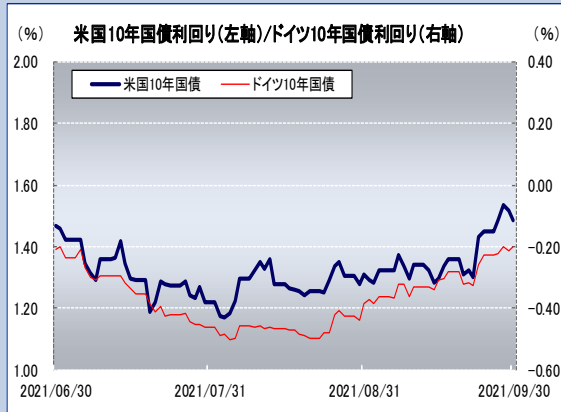


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



・債券市場

米国長期金利(10年国債利回り)は上昇しました。7月は、景気回復のピークアウト感や感染再拡大への懸念などからリスク回避的な動きが強まり、金利は低下しました。8月は、金利は上昇しました。雇用統計で労働市場の改善が示されたことや、金融政策の正常化プロセスとして量的緩和を段階的に縮小していくテーバリングが意識されたことが金利の上昇要因となりました。9月も、金利が上昇しました。FOMC(米連邦公開市場委員会)にて、政策金利予想が引き上げられたことやテーバリング(量的緩和の段階的縮小)を早ければ次回(11月)会合で決定して2022年半ばに終了する可能性が示されたことが、金利の上昇要因となりました。ユーロ圏は、概ね前期末程度の長期金利水準となりました。米国市場に連動したことや、将来の金融緩和縮小観測などが、金利上昇要因となりました。

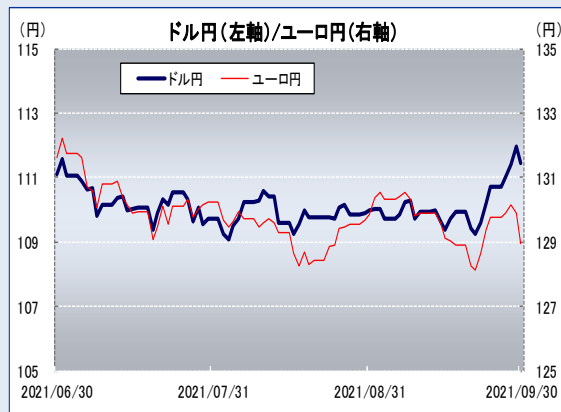


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



○為替市場

米ドル/円は円安となりました。7月の米ドル/円は、リスク回避的な動きや米金利の低下を背景に円高となりました。8月は、小幅の円安になりました。米金利上昇が米ドル高要因になった一方、リスク回避の動きが米ドルの重石となりました。9月は、米金利の上昇を受けて、円安となりました。ユーロ/円は円高となりました。7月のユーロ/円はECBのハト派姿勢が継続したことなどから、円高となりました。8月は、リスク回避の動きの強弱を受けて、一進一退となりました。9月も、リスク回避的な動きや欧州金利の上昇を受けて一進一退で推移しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841
平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。